



☆市政だより6月号と一緒に配布（山古志地域を除く）
したハザードマップのわかりやすい解説動画を6月中旬から「ながおか防災ホームページ」で公開します

新しい洪水ハザードマップで “あなたの避難”を決めよう

～ハザードマップ裏表紙のチェックシートを活用しながら～

1 わが家の特徴を確認

避難に使える 車 ある・ない	上階への避難を想定 建物の階数 1・2・3階以上	浸水しない区域に 頼れる 知人・親戚 いる・いない	など
----------------------	--------------------------------	------------------------------------	----

2 地図で自宅の危険性を確認

ハザードマップ
2ページ「見方」へ

洪水時の 自宅周辺の…	浸水する 区域と深さ 浸水想定区域	激しい流れで の倒壊の恐れ 家屋倒壊等氾濫想定区域	避難時の 危険箇所 洪水時危険箇所	など
----------------	-------------------------	---------------------------------	-------------------------	----

3 避難行動、避難先、移動手段を決定

ハザードマップ
3ページ「判定フロー」へ

避難先まで、想定している手段で
平時に移動して確認しておく

命を守るためにハザードマップの活用を



国立研究開発法人
防災科学技術
研究所理事長

林 春男さん

水害の季節を迎えるにあたり、もう一度「避難」の在り方を考えてみましょう。避難の目的は「難を避け、安全を確保すること」です。必ずしも市の開設する避難場所に行くことだけが避難ではありません。洪水ハザードマップを見て、どこにいるのがもっとも安全か良く考えましょう。状況によっては、自宅にとどまる方が安全な場合もあります。知人や親戚宅に避難できれば感染症のリスクも下がります。どうすれば安全が確保できるかを日ごろから周囲の人たちとよく話し合い、必要な備えをしておきましょう。

～新たな長岡方式の防災対策～



最大規模の降雨を想定

命を守るための

3つの避難行動を

信濃川が観測史上最高の水位に達するなど、市内に大きな被害をもたらした昨年10月の台風19号。

その教訓を踏まえ、最大級の災害リスクや信濃川の氾濫の危険性を視野に入れて、水害から市民の命を守るために、新たな「長岡方式の避難行動」などをまとめました。

市政だよりと一緒に配布した「洪水ハザードマップ」では、具体的な避難行動を考えるチェックシートも掲載。

梅雨を迎える前に家族で活用しながら、いざへの備えを確認しましょう。

閩危機管理防災本部 ☎39・2262

台風19号からの教訓

- 大規模な水害時は、市の避難施設だけでは、浸水想定区域に住む市民全員を受け入れられない（9万6千人分のスペースが不足）
- 市は早期に避難情報を発信。各自で気象情報などに注意し、早めの避難準備と避難行動が必要
- 避難先を事前にしっかり決めておかなければ、迅速な避難ができない

自宅内や車移動による安全確保を優先的に考え、市が開設する避難施設だけでない、新たな「長岡方式の避難行動」を決定

まずはこちらの行動

1 自宅の上の階に避難



2 浸水しない場所へ車などで避難



または

できない場合

3 市が開設する避難場所へ



※避難行動の考え方は4ページで詳しく解説しています